

# アッケシソウの四季



緑のころ



芽生え



終わる



紅葉

# アッケシソウ通信

創刊号

平成23年9月



アッケシランド



見学者



清掃作業

## アツケシソウランドに よせて

浅口市長 栗山 康彦

この度は「アツケシソウ通信」の創刊、誠におめでとうございます。

秋には紅く色づき、一面を赤く染めるアツケシソウ。その姿はまるでサンゴのようであり、秋の紅葉時には訪れる人々を魅了します。

アツケシソウは二〇〇三年に寄島干拓地内で生育が確認されて以来、その翌年に結成された「アツケシソウを守る会」会員の皆様による、熱心な草刈作業、調査、研究等により、年々生育範囲は拡大し、アツケシソウを訪れるお客様も、近年では市内外から一万人を超えるまでになりました。また、昨年には浅口市内の高校生も一緒に草刈りを行うなど、絶滅危惧種ⅠB類に指定されているアツケシソウへの感念が高まるとともに、市民みんなで守っていくという機運が高まってきており、これまでの会員の皆様方のご尽力に改めて敬意を表し、感謝申し上げます。

寄島干拓地は本州唯一のアツケシソウ自生地であり、その起源などは現在も研究が進められています。歴史的にも大変興味深く、希少な植物アツケシソウが、これまで以上にその生育範囲を広げ、多くの人々に親しまれることを心から祈念し、「アツケシソウ通信」創刊のお祝いいたします。

## 通信発刊によせて

会長 作田 雅利

このたび、アツケシソウ通信を発行することにになり、その創刊号を発刊いたしました。会員の長い間の夢でありましたので、ほんとうに嬉しく皆さんとともに喜び申し上げます。

寄島町で、アツケシソウが発見されてから八年、その間の会員皆様の保護育成にかける熱い思いと、地道なご努力は筆舌に尽くしがたいものがあり、心から敬意を表するものであります。このことは、当初の五倍近くという、年を追ってのアツケシソウの面積の拡大、毎年紅葉期に来園される方が五千人から一万人を超えていること、そして平成二十一年度には、自生地が岡山県の景観百選に選ばれ、加えて、守る会の活動が岡山県民文化大賞を受賞するという快挙を達成したことももつても明らかであります。

この荣誉は、会員一人一人の誇りとして堅持し、これからの活動の目標として掲げていきたいものと思っておりますが、一方で私は、この機会に「初心忘れるべからず」という、草創期の会員としての自覚に立ち返り、改めて保護育成について真剣に議論し、考えていかなければならないときでもあると思っております。

それはアツケシソウが国の指定する絶滅危惧種であると言う、厳然たる事実であります。狩山俊吾先生によれば、寄島干拓地で、今後アツケシソウの存続を脅かす主な要因としては、自生地の乾燥化、

自然遷移、踏みつけなどが考えられると言われています。特にアツケシソウの生態学的研究や自然の遷移による絶滅の危険性については、過去に研究文献がほとんどなく、これからの会員による調査研究に待つところが大きいと言わざるを得ません。以前に生育が確認されていて現在絶滅している宮城県、徳島県などの事例をもとに、その生育経過や絶滅への過程を研究する必要があるのではないかと考えています。

さて、このアツケシソウ通信の発行により、会員相互が守る会の存在意義や使命感を共有し、活動に誇りを持ち、活気あふれる会になりますよう心から祈念し、あいさついたします。

## アツケシソウ保護活動に 関わって

顧問 応本 圭司

平成十五年、本州唯一の自生といわれるアツケシソウの群生が、寄島干拓堤防の湿地で発見された。絶滅危惧種に指定されているこの野草の保護をしようと、守る会に参加し、図らずも会長に任せられ、何とかその職責を果したい思いで活動に関わった六年間に、特に印象に残っている問題を記してみます。

一、アツケシソウと観光

荒野の中に、赤い絨毯を敷いたように広がるアツケシソウを、近くに寄って見たい、写真を撮りたいと、年々増加する来観者の要望が多かった。が、絶滅の一つの要因とされる人畜の踏付等の防止

の為、保護区を設定し、諸々の対策でこうした要望は極力断り続けてきた。

しかし、二十一年に至って岡山県景観百選に選ばれ、岡山県民文化大賞を受賞したり、来観者も一万一千人を超えるなど、観光面を考えながらの保護活動に舵を切るのもやむを得ないと、その年の総会で若干の方向転換の活動を決定した次第であった。とはいえ、観光面は市等の観光施策との連携で対応してもらい、会の活動は保護を基本に実施するべきで、関係機関との連携活動の内容の工夫が今後大切だと想われる。

二、アツケシソウの生態調査

生育地の土、水、光、大気、共生する草等、アツケシソウの生育に関係する環境の調査が大切だと認識していたが、不十分であった。この調査には、担当する人と器材が必要であるが、守る会で対処することは出来なかった。アツケシソウが将来も今の地で生育を続けてゆく為には、基本的に重要なことなので、市が人の問題等、力を入れて下さることを念願している。

この問題は、八月十七日テレビのニュースで、北海道能取湖畔のアツケシソウが昨年から激減し、四ヘクタールの群生が半減した状態になり、東京農業大学の専門の先生が調査を始めた由が報道された。能取湖畔の群生は栽培管理されてきたもので、そうした所でもこのようなことになるので、平素の生態把握が如何に大切かを、改めて認識した次第であった。この紙面を見て専門知識を持つ方が、会に加入して下されば、大変有難い。

## 浜辺のミュージアムを 訪ねて

岡 辺 敬 子

三月十七日会員研修視察で「観音寺市琴弾公園と有明浜」を訪ねました。

公園に着き個性豊かな巨木の松原を抜けると、ここが瀬戸内の海辺かと目を見張りました。どこまでも続く砂浜、はるか遠くに島影一つ（伊吹島）。2kmにも及ぶ有明浜の景観には、唯々感嘆したものです。

「香川の水辺を考える会」が設立された自然の中で環境を考え、海浜植物・海辺の生物の観察保護に熱心に取り組んでおられる様子を学芸員の先生より説明していただきました。何よりも自然の営みを壊さないように小学生や高校生をも含めての活動は、私達にも大いに参考となり課題も気づかせてくれました。

その後丸亀市の万象園で昼食。庭園美術館の見学と、初めての会員研修視察は楽しい一日となり、私にとって「有明浜」はもう一度訪れたい所となりました。

## アッケシソウ雑記

山 本 敏 夫

アッケシソウにはサンゴソウ、ヤチサンゴなどの美名がありますが、広く分布しているヨーロッパでは実用的な名前がつけられています。例えば代表的な英語名でGlasswort（ガラス草）があります。野菜として食用にした他、昔焼

いてガラス製造原料ソーダ灰をとったのでこの名があるそうです。

さて、手元にあつた昭和12年（一九三七年）刊行の「香川県植物分類目録」を見ると、アッケシソウの写真があり、「分布」詫間・木澤・土庄塩田（用途）食用〔摘要〕稀少植物・朝鮮系とありました。

当時、朝鮮系とした根拠はわかりませんが、この度、寄島干拓地のアッケシソウがDNA鑑定の結果、北海道産と異なり、朝鮮半島産と同一系統であることが判明しました。どのような過去の変遷をたどって今日に至ったものか、今後解明されていくものと思います。

終わりに、寄島の至宝アッケシソウ群落の益々の隆昌をお祈りします。

## アッケシソウの保護活動

金光ライオンズクラブ会長

平 井 信 義

二〇〇七年八月当時の「アッケシソウを守る会」会長の応本圭司様のスピーチ「アッケシソウを守る会の活動と概要について」に賛同し、金光ライオンズクラブ会員全員が入会いたしました。

現在まで年二〜三回の草刈りに参加しております。入会した当時と比べて現在はアッケシソウの整備、見学者の利便性を考慮して、いろいろ設備も充実してきました。秋にはアッケシソウも緑から赤へと色づき見学者も年々増え、浅口市の観光スポット的存在になっております。

これもひとえに、地道に活動されている会員の方々の努力の賜物と感服致します。

す。私達もこの貴重な植物を守るため、微力ながら除草作業に取組んでまいります。

## 夢のアッケシソウ

荒 川 椒 固

アッケシソウ・ララ・アッケシソウとさわやかな曲が説明の邪魔にならぬよう控えめに流れているテントは十月になると多くの皆さんを呼んでいるように建てられます。

中旬になると真赤に紅葉しますが、毎年、その年ならではの色を見せてくれます。今年の赤はどんな色かしらと、ワクワクさせられます。昨年は猛暑と雨の少なかつたため、茶色がかつた赤でした。年々帯のように広がってゆき、範囲が長く延びて堤防の東の遊水まで横一本の帯になつたらどんなに見事なことか。遊歩道近くには、コスモスや野の花、野鳥やめずらしい動物の住み処があつたり、夢は広がります。そのためには、人の助けが必要で、守る会の若手が増えて夢の楽園ができるよう、さらに担い手を増やさねばと強く感じているこの頃です。

## 寄島のアッケシソウについて

寄島中学校二年

大 島 慎 平

僕は、一年生の総合の時間に皆でアッケシソウについて調べ、レポートを書いたことがある。

アッケシソウは、海岸の入り江や塩田、

干拓地など塩湿地という特殊な環境に生育する植物で、環境省のレッドデータブックで絶滅危惧種に指定されている。寄島が自生地としては本州唯一といわれ、浅口市天然記念物に指定されている事は、僕達にとっても嬉しいことだ。

また、この貴重なアッケシソウを守るため、守る会の方々が保護育成活動に取り組んでいることもよく分かつた。僕達も、この貴重な自然を守るため、アッケシソウへの知識を深め、いろいろな活動に参加していきたいと思う。この美しい光景が失われることのないように。

## アッケシソウと共に…

おかやま山陽高等学校 サッカー部マネージャー

池 尾 明日香

寄島町に「アッケシソウを守る会」が発足したのと同じ時期に「おかやま山陽高校、サッカー専用グラウンド」が完成しました。

グラウンドの傍で、力強く大地に根を張り、すくすくと育つアッケシソウは、時々折れそうになつたチームの心に勇気を与えてくれます。

サッカー部は、毎年そのアッケシソウの周りの清掃活動を全員で行っています。当たり前のことですが、私達がサッカーを通じ夢を追い続けることができるのは地域の方々の協力や支えがあるからこそです。

私達は、これからも感謝の気持ちを持たずアッケシソウと共に、「全国大会出場」を目指し、頑張っていきます。

# アッケシソウのルーツ

岡山理科大学教授

星野卓二

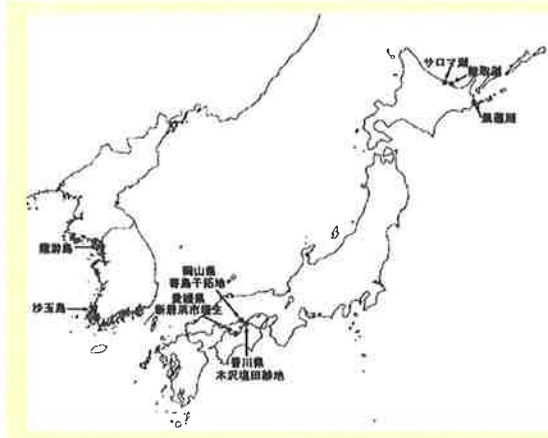
瀬戸内海のアッケシソウが江戸時代から明治時代にかけて、北海道から持ち込まれたものであるとする「北前船説」に従えば、アッケシソウが瀬戸内海に広がったのは、せいぜい一〇〇年か三〇〇年前のことになる。しかし、今回明らかになった瀬戸内地方産と北海道産のアッケシソウの塩基配列の違いが、そのような短期間に生じたとは考えられない。

韓国では、アッケシソウは現在でも干潟や塩田の周囲に多く見られる。瀬戸内地方のアッケシソウも塩田跡に集中していることから、過去の交易の際に朝鮮半島から人為的に瀬戸内地方に導入されたのかも知れない。あるいは、もともと日本各地の塩田にひろく分布していたアッケシソウが、開発や埋め立てにより生育地が減少し、瀬戸内地方の塩田跡地のような特殊な環境に生き残った可能性も否定出来ない。

いずれにせよ、遺伝子解析の結果は、瀬戸内地方のアッケシソウが北前船によって北海道から来たのではないことが明らかになった。今後は、沿海州やサハリン、千島列島など、日本の周辺地域の集団を解析することにより、日本のアッケシソウの起源を解明できると考えられる。

(第十二回「岡山学」シンポジウム 高梁川流域を科学する Part 2より 転載)

## 日本と韓国におけるアッケシソウ分布図



### 平成23年度アッケシソウを守る会

#### 《重点目標》

- 一、保護地区の拡大と整備に努める。
- 一、研修(旅行)等を行い、保護活動に関する情報の収集に努める。

#### 《年間事業計画》

- 4月17日(日) 総会
- 4月23日(土) 第1回草刈作業
- 6月25日(土) 第2回草刈作業
- 9月17日(土) 第3回草刈作業
- 10月初旬 「アッケシソウ通信」創刊号発行
- 10月6日(木) 10月26日(水) アッケシソウ祭り(ガイド)

平成24年3月 研修旅行  
※随時役員会開催

### 平成23年度

#### 《収支予算書》

(収入の部)				(単位:円)
項目	今年度予算額	前年度予算額	増減	備考
補助金	50,000	50,000	0	市からの補助金
繰越金	60,625	766,841	△ 706,216	前年度繰越金
会費	69,500	69,500	0	500円×139人
雑収入	150,375	150,359	16	絵葉書等売上金 預金利息等
募金	150,000	150,000	0	
計	480,500	1,186,700	△ 706,200	

(支出の部)				(単位:円)
項目	今年度予算額	前年度予算額	増減	備考
事業費	220,000	440,000	△ 220,000	アッケシソウ祭り 研修 広報誌 調査費
需用費	150,000	150,000	0	
旅費	10,000	50,000	△ 40,000	
積立金	100,000	500,000	△ 400,000	篤志会計へ繰出
予備費	500	47,200	△ 46,700	
計	480,500	1,187,200	△ 706,700	



研修旅行 浜辺のミュージアム

ド・巡視・清掃パトロール

## 守る会 会員大募集!

貴方のご参加を待っています!

本州唯一の塩湿地に自生する天然記念物、浅口市の宝物アッケシソウは、環境省のレッドデータブックで絶滅危惧種ⅠB類指定の貴重な海浜植物です。

現在、一四〇名の守る会会員のご支援とご協力によって、大切に保護育成され、特別保護区A・B地区は、当初の約五倍の面積に拡大し、秋十月には紅の美しい姿を見せています。

守る会では、この一帯を「アッケシランド」と命名し、より発展的な保護拡大のために、さらなる会員の拡大を願っています。

①年間会費は五百円で、会の運営費に充当いたします。遠隔や高齢の方は、草刈り作業等に参加されなくとも結構です。

②年三回の草刈作業等に参加可能の方の加入を願っています。団塊世代の皆さん、奮ってのご参加を。

### 編集後記

かねて念願の「アッケシソウ通信」創刊号をお届けします。浅口市民共有の宝物であるアッケシソウを、より多くの皆さんに知って頂き、皆さんと共に大切に保護育成をと念じています。

なお、皆様からの投稿(ご意見や詩歌等)をお待ちします。